大館市病院事業
経営強化プランの点検・評価報告

（令和６年度実績）

令和７年８月

大館市病院事業

目　　次

１．　新たな経営強化プランの点検・評価・公表について　P.1

２．　市立病院の現状　P.2

３．　経営強化プランの点検・評価

（1）　点検・評価の方法　P.12

（2）　医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標　P.13

（3）　経営強化に向けた具体的な取り組み　P.15

（4）　経営指標に係る数値目標　P.17

（5）　経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等　P.19

（6）　総括　P.22

１．経営強化プランの点検・評価・公表について

大館市病院事業ではこれまで、市立病院に求められる役割・機能の変化への対応や他医療機関との機能分担や連携による効率的な病院経営、少子高齢化等の周辺環境の変化への対応を目的に中期経営計画（平成 26 年度から平成 30 年度まで）や経営改革プラン（平成 29 年度から令和2年度まで）を策定し、経営の効率化に取り組んできました。

経営改革プランの対象期間から一定の期間が過ぎ、少子高齢化の進行に伴う医師・看護師等の不足や医師の時間外労働規制への対応、感染症拡大時に公立病院が果たすべき役割の重要性が再認識されたことから、総務省は令和4年3月に「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」を公表しました。

大館市病院事業では、公立病院経営強化ガイドラインに基づき、地域特性を踏まえた持続可能な医療提供体制の確保に向けて、「大館市病院事業経営強化プラン（令和6年度～令和9年度）」（以下「経営強化プラン」という。）を策定しました。

経営強化プランでは、毎年度病院ごとに自己点検及び自己評価を行い、病院ホームページで公表するものとしています。そのため、令和6年度実績について総合病院及び扇田病院において点検・評価を行った内容について公表します。

2．市立病院の現状

(1) 市立病院の状況（令和7年3月31日現在）

＜総合病院＞

病 床 数	443 床 一般病床:375 床、精神病床:60 床、結核病床:6 床、 感染病床:2 床
診 療 科	25 科 呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、腫瘍内科、 内分泌内科、代謝内科、神経内科、精神科、小児科、外科、 呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、 産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、 リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、矯正歯科
正職員数	520 名 医師:53 名、看護師・准看護師:338 名、 医療技術職 93 名、事務職:35 名、技能員:1 名
備 考	令和6年4月1日 地域救命救急センター、訪問看護ステーションを開設

＜扇田病院＞

病 床 数	104 床 一般病床:62 床、療養病床:42 床
診 療 科	5 科 内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻いんこう科
正職員数	62 名 医師:3 名、看護師・准看護師:40 名、 医療技術職:10 名、事務職:9 名
備 考	令和7年4月1日 1 病棟 40 床(療養病床)体制に移行

(2)経営の状況

令和6年度大館市病院事業では、経営強化プランに基づき地域に必要な医療の提供と経営改善に向けて取り組んできました。

総合病院は、近隣医療機関の機能縮小が進む中で、圏域の中核病院としての役割を果たすため、令和6年4月に地域救命救急センターと訪問看護ステーションを開設するなど、医療機能の充実に努めました。また、地域全体で医療・介護を提供できる体制の構築を目指し、令和6年12月に大館・鹿角圏域の 4 法人による一般社団法人北鹿ヘルスケアネットを設立しました。

扇田病院は、地域に根差した一次医療機関として、回復期・慢性期医療の提供と、訪問診療などの在宅医療及び健診事業の提供に努めるとともに、令和7年度からの 1 病棟 40 床体制に向けて取り組みました。

令和6年度の損益状況は、総合病院で病床稼働率が上昇したことなどにより医業収益が増加したものの、プラン策定時に想定していなかった大幅なベースアップを伴う給与制度改正や、物価高騰による医業費用の増加などにより、総合病院、扇田病院ともに前年度に比較し純損失が増加する厳しい状況となりました。

※ 点検・評価報告における実績額について

⑴ 各収支項目の実績額は、総務省「地方公営企業決算状況調査」の区分による。

⑵ 令和6年度の総合病院「医業収益」及び「医業費用」実績額には、「訪問看護事業収益」及び「訪問看護事業費用」実績額を含む。

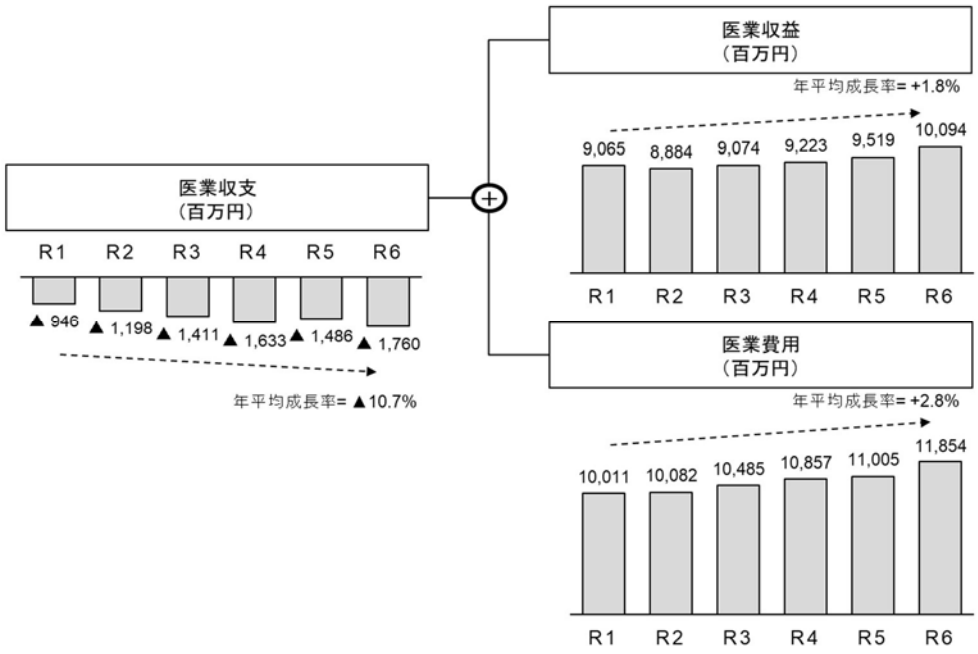
（ア） 医業収支の状況

＜総合病院＞

総合病院は、令和6年度下半期に一般病床の病床稼働率が上昇したことや、外来患者数の増加により、入院収益、外来収益ともに過去最高額となり、医業収益は前年度に比較し、約 5 億 7,500 万円増加しました。

一方、医業費用は令和6年度の人事院勧告が大幅なベースアップとなったことや、民間賃金の引上げによる業務委託費などの経費の増、物価高騰による材料費・光熱費の増などにより、医業費用は前年度に比較し、約 8 億 4,900 万円の増となりました。

令和6年度は、下半期に高い病床稼働率を維持したことなどから、診療収入が伸びたものの、費用の増加がそれを上回ったことから、約 17 億 6,000 万円の医業収支赤字となっています。

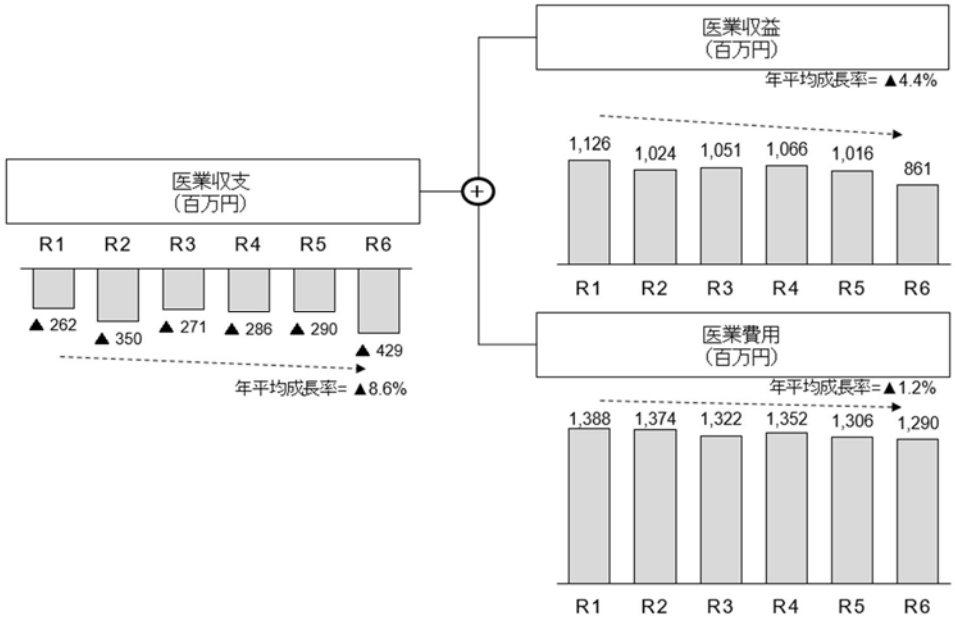


＜扇田病院＞

扇田病院は、令和6年度上半期後半にコロナ感染による入院制限を行って以降、入院患者数が回復せず、また、1病棟体制への移行期でもあったため、患者数は更に減少し、入院収益は大きく減少したことにより、医業収益は前年度と比較し、約 1 億 5,600 万円減少しました。

一方、医業費用は令和6年度の人事院勧告が大幅なベースアップとなったことや、民間賃金の引上げに伴う業務委託費の経費のかかり増しなどがあったが、患者減少による材料費などの減少が大きかったことで医業費用は、前年度と比較し、約 1,600 万円の減少となりました。

令和6年度は、費用は抑制できたものの、入院収益が大きく減少したことから、医業収支は約 4 億 2,900 万円の赤字となっています。

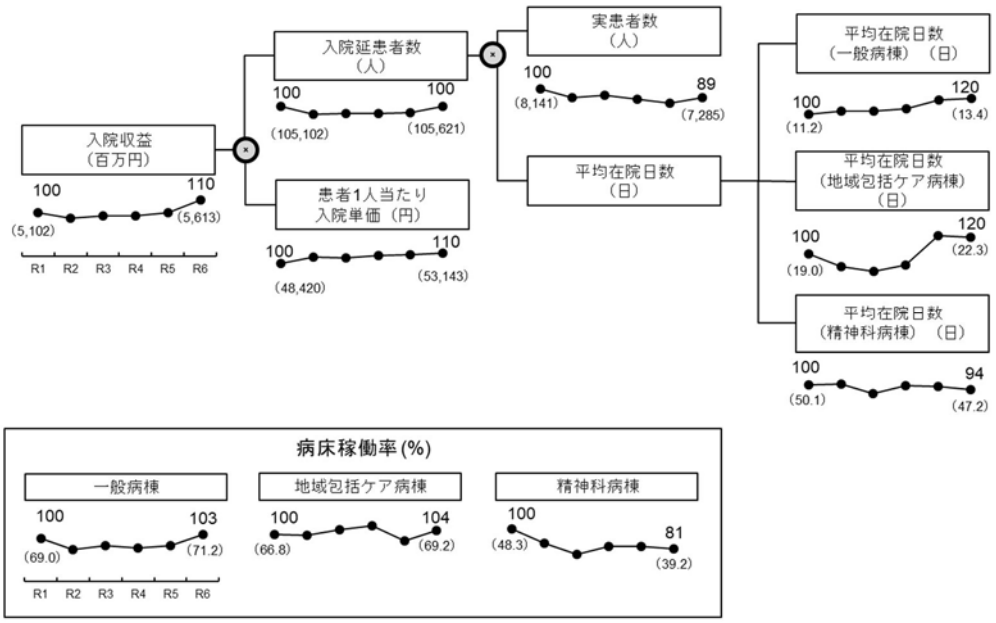


（イ） 収益分析

＜総合病院＞

① 入院診療の状況

総合病院の入院延患者数は横ばいで推移しています。これは、一般病棟及び地域包括ケア病棟における平均在院日数が増加していることが主な要因です。一方で、患者1人当たりの入院単価は上昇傾向にあり、それに伴い入院収益全体としては増加で推移しています。

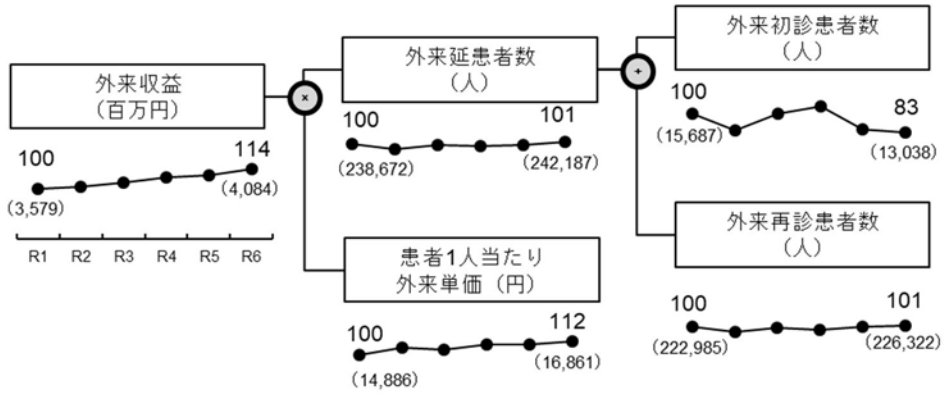


○令和6年度

・前年度比約 5 億 900 万円の増加
・下半期は、一般病棟、地域包括ケア病棟とも新規入院患者の増加等により病床稼働率が上昇
・呼吸器内科、整形外科、消化器・血液・腫瘍内科、外科等で前年度より収益増
・DPC 分類ごとの適切な入院期間による収益確保
・医療の高度化、診療報酬改定に伴う DPC 係数の引上げなどにより入院単価が上昇

② 外来診療の状況

外来延患者数は、横ばいで推移していますが、初診患者数は減少傾向にあります。患者一人当たりの外来単価は増加傾向にあり、これに伴い外来収益も増加しています。



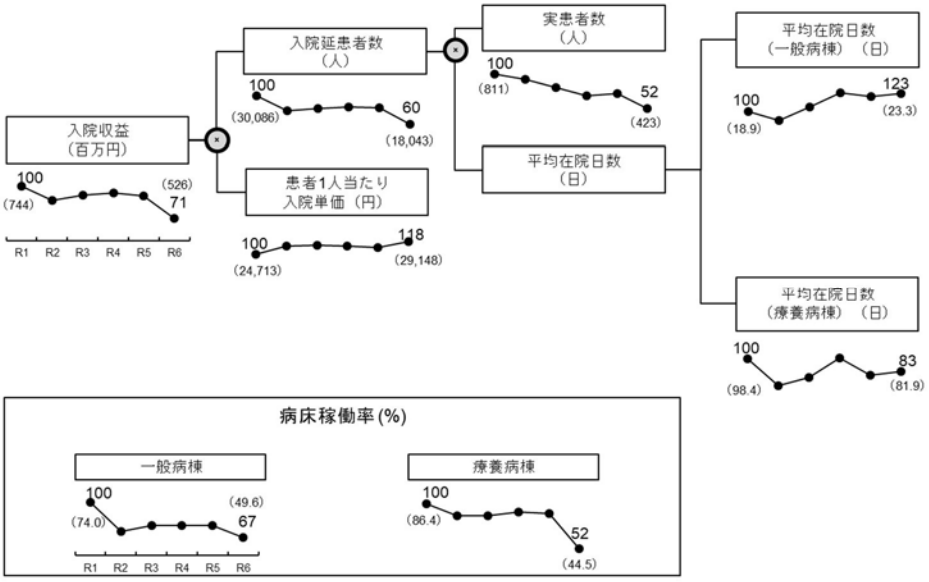
○令和6年度

・前年度比約 1 億 6,600 万円の増加
・地域のクリニック等の医療機能縮小により前年度と比較し延患者数が増加
・地域の診療所の減少などにより、逆紹介が困難となっており、再診患者は微増

＜扇田病院＞

① 入院診療の状況

扇田病院の患者1人当たりの入院単価は増加傾向にありますが、入院延患者数の減少が大きく、入院収益としては減少傾向にあります。入院収益減少の主な要因は入院実患者数の減少です。



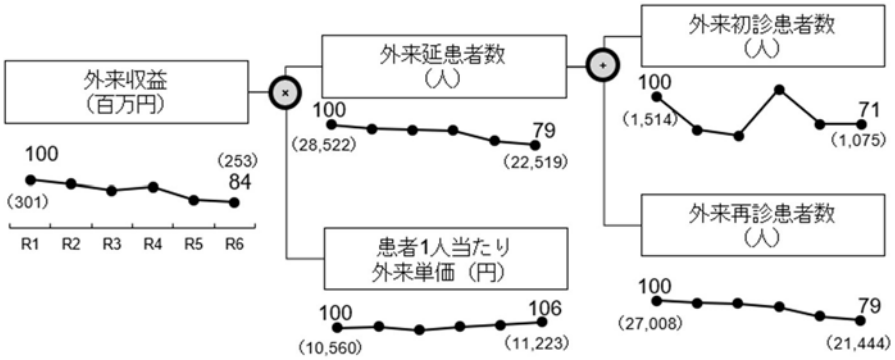
○令和6年度

・前年度比約 1 億 5,000 万円の減少

・療養病床の入院患者が減少し、それに伴い病床稼働率は大きく低下

② 外来診療の状況

扇田病院の外来延患者数は減少傾向にあり、初診・再診ともに減少しています。患者1人当たりの外来単価は増加傾向にあるため、外来収益減少の主な要因は外来延患者数の減少です。



○令和6年度

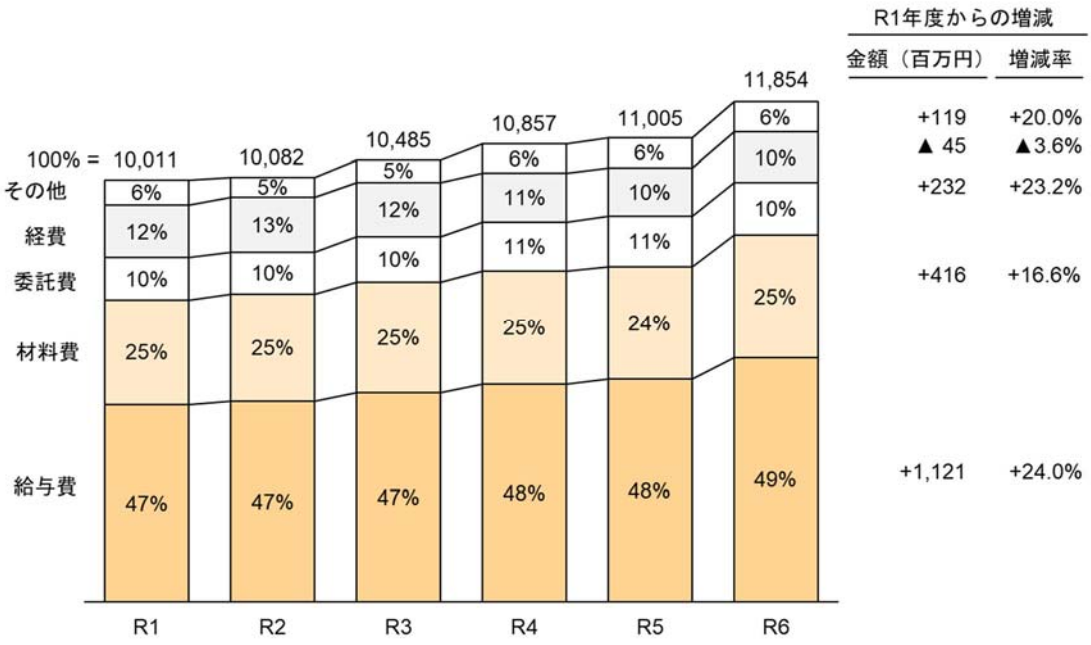
・前年度比約 500 万円の減少

・眼科の休診や高齢患者の減少により延患者数が減少

(ウ)費用分析

＜総合病院＞

総合病院の医業費用は経年で増加傾向にあります。全ての費用項目が増加傾向にあり、医師・看護師・医療技術職の確保等による給与費の増加、材料費の増加が主な要因となっています。



○令和6年度

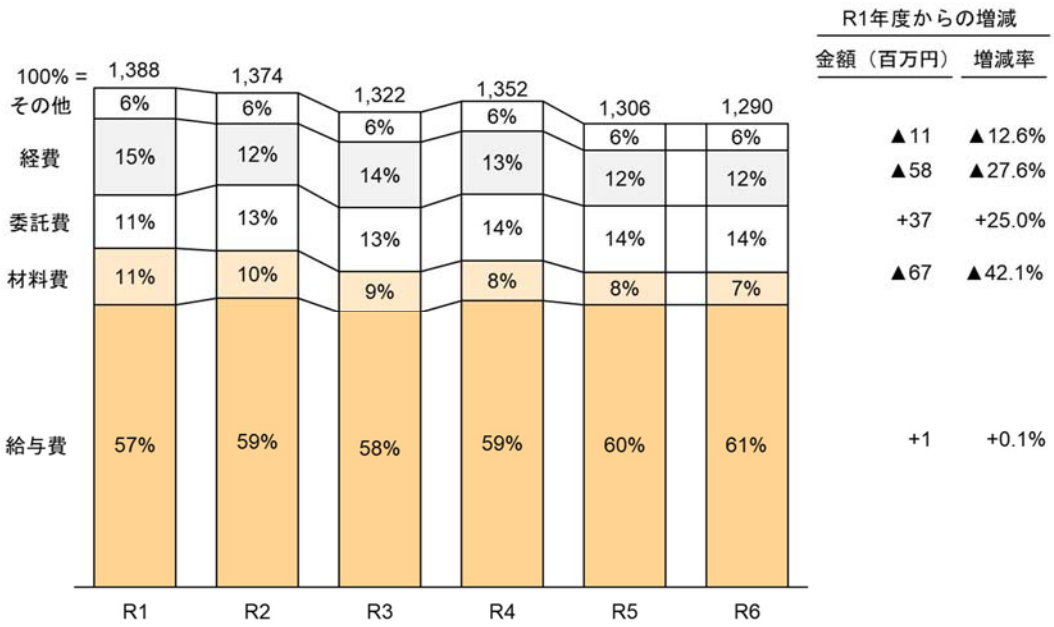
・給与費　人事院勧告を踏まえたベースアップの影響等による増
（前年度比 約 5 億 1,300 万円）

・材料費　医療の高度化等による薬剤費、診療材料費の増
（前年度比 約 2 億 5,100 万円）

・経　費　光熱費の価格高騰や、民間企業の賃金引上げ等による業務委託費等の増（前年度比 約 8,500 万円）

＜扇田病院＞

扇田病院の医業費用は経年で減少傾向にありますが、委託費及び給与費が増加傾向にあり、特に委託費においては、令和1年度との比較では約25%増加しています。



○令和6年度

・給与費　人事院勧告を踏まえたベースアップの影響があったものの、当該年度中に人員の適正化に取り組み増加額を抑えた
（前年度比 約 100 万円）

・材料費　患者数減少による薬剤費、診療材料費、給食材料費の減
（前年度比 約▲ 1,300 万円）

3．経営強化プランの点検・評価

（1） 点検・評価の方法

自己評価にあたっては、次の方法により行いました。

○取組状況に対する自己評価

区分	評価の内容
A	計画にあげた取組は、全て行った。
B	計画にあげた取組は、一部のみ行った。
C	計画にあげた取組は、行わなかった。

○数値目標に対する自己評価

区分	評価の内容	
	目標値が正の値の場合	目標値が負の値の場合
A	目標達成値が 100 以上の場合	目標達成値が 95 未満の場合
B	目標達成値が 95 以上で 100 未満の場合	目標達成値が 95 以上で 100 未満の場合
C	目標達成値が 95 未満の場合	目標達成値が 100 以上の場合

※目標達成値＝実績値÷目標値×100

(2) 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

〈総合病院〉

医療機能	指標項目	R5年度	R6年度		R6年度実績対前年度増減	R6年度実績対目標増減	評価
			目標	実績			
急性期（一般病床）	平均在院日数	13.1日	12.0日	13.4日	0.3日	1.4日	A
	手術件数	1,804件	1,850件	1,756件	▲48件	▲94件	C
	リハビリ患者数	26,481人	24,250人	29,199人	2,718人	4,949人	A
	クリニカルパス適応率	45.7%	42.1%	43.4%	▲2.3％	1.3%	A
救急	救急患者数	7,672人	7,600人	7,410人	▲262人	▲190人	B
	地域救急貢献率	67.30%	62.00%	64.10%	▲3.2%	2.10%	A
	PCI実施件数	119件	115件	104件	▲15件	▲11件	C
	HCU利用率	－	－	－	－	－	－
がん治療	院内がん登録者数	868人	870人	904人	36人	34人	A
	化学療法患者数	4,901人	4,600人	5,086人	185人	486人	A
	放射線治療患者数	155人	140人	166人	11人	26人	A
周産期	分娩件数	369件	370件	332件	▲37件	▲38件	C
認知症	認知症センター相談件数	254件	260件	286件	32件	26件	A
退院支援	退院支援実施率	27.0%	23.0%	26.0%	▲1.0%	3.0%	A
	在宅復帰・病床機能連携率（急性期）	97.9%	95.0%	97.9%	0.0%	2.9%	A
	在宅復帰率（地域包括ケア病棟）	81.5%	80.0%	80.7%	▲0.8%	0.7%	A
在宅医療	訪問看護件数	－	3,500件	2,827件	－	▲673件	C
地域医療連携	患者紹介率	54.2%	45.0%	53.5%	▲0.7%	8.5%	A
	患者逆紹介率	20.6‰	20.0‰	23.9‰	3.3‰	3.9‰	A

主な取組状況

・急 性 期　リハビリ患者数は、入院患者数の増加及び理学療法士の増員により目標を上回った。

・救　　急　救急患者数は、目標を下回ったが救急搬送患者数が前年度より増加したことから、地域救急貢献率は目標を上回った。

・がん治療　化学療法患者数は、入院による治療患者数が増加し目標を上回った。

・在宅医療　訪問看護件数は、主に総合病院の患者を対象として取組んだが目標を下回った。

〈扇田病院〉

医療機能	指標項目	R5年度	R6年度		R6年度実績対前年度増減	R6年度実績対目標増減	評価
			目標	実績			
回復期	在宅復帰率	77%	78%	82%	5%	4%	A
地域医療	オープンベッド患者数	35人	20人	4人	▲31人	▲16人	C
	夕やけ診療患者数	1,413人	1,500人	1,270人	▲143人	▲230人	C
健診事業	人間ドック・企業健診受診者数	1,690人	1,700人	1,749人	59人	49人	A
	人間ドック・企業健診再受診者数	74人	70人	79人	5人	9人	A
	企業予防接種数	1,335人	1,400人	1,266人	▲69人	▲134人	C
在宅医療	訪問診療・看護件数	2,039件	2,040件	2,240件	201件	200件	A
	在宅看取り件数	23件	30件	35件	12件	5件	A
	地域連携室相談件数	2,918件	2,600件	2,691件	▲227件	91件	A

主な取組状況

・地域医療　オープンベッド、夕やけ診療患者数は、病床数の見直しや新患受付制限などにより目標を下回った。

・健診事業　人間ドック・企業健診受診者数は、予約状況に合わせて実施日を変更するなどの工夫により目標を上回ったが、企業予防接種数は、出向回数が減少したことで下回った。

・在宅医療　訪問診療・看護、看取り件数は、対象者が増加したことにより、目標を上回った。

（3） 経営強化に向けた具体的な取り組み

＜総合病院＞

区分	項目		経営強化策	令和6年度進捗状況（点検）	評価
業務改善	外来業務の負荷軽減		・医師事務作業補助者の活用による医師業務の効率化 ・リフィル処方の活用による診察回数の適正化	・R6.10 から医師事務作業補助者1 人を増員し、手術室へ配置することで医師の業務負担軽減を図った。 ・リフィル処方件数は、R6 年度 871 件で前年度より 477 件増加した。	B
	病棟業務の負荷軽減		・看護業務の整理（不要な業務、実施方法の変更、業務のシフト・シェア）	・看護記録内容の統一化や記載頻度の見直し等により、業務効率化の検討を進めた。	B
収支改善	収益関連	患者数増加策	・三次救急の整備による救急患者受入体制の向上 ・緩和ケア病棟の整備によるがん患者の受入れ	・R6.4 に地域救命救急センターを開設した。 ・緩和ケア病棟整備は未実施	B
		患者単価適正化策	・コメディカルの加算余地見直しによる施設基準取得向上 ・標準的な統一基準の作成による検査等の適正化 ・医師の外来業務負荷軽減による検査、手術件数の適正化	・R6.8 から全病棟へ薬剤師を配置し、病棟薬剤管理業務実施加算Ⅰを取得した。	B
	費用関連	人件費適正化策	・病院職員の業務量改善による時間外勤務の抑制	・労務（出退勤）管理システムを導入し、勤務時間集計等の効率化を図った。	B
		材料費抑制策	・安全性・安定供給を考慮した上での後発医薬品・バイオシミラーの使用率向上 ・院内フォーミュラリの作成による材料費の標準化	・医薬品の供給制限などの影響により先発医薬品の使用が増え、後発医薬品使用率が伸びなかった。 ・院内フォーミュラリは薬事委員会で今後検討予定	C
		委託費抑制策	・委託内容、業務仕様及び契約方法の見直し	・R7.3 にレセプト審査システムを導入し、医事業務委託費の縮減を図った。	B
人材確保			・医師、看護師、医療技術職員等の勤務環境の整備	・R6.9 から地域救命救急センターに看護師 2 交代制を導入し、時間外勤務の短縮を図った。 ・看護師の管理当直者の配置を開始し、休日・夜間の救急患者の入院調整等、業務の効率化を図った。	B
その他			・訪問看護ステーションの整備による地域在宅医療への貢献	・R6.4 に訪問看護ステーションを開設し、地域に不足している在宅医療の充実に取り組んだ。	A

＜扇田病院＞

区分	項目		経営強化策	令和6年度進捗状況（点検）	評価
収支改善	収益関連	患者数増加策	・外来診療時間の拡大による新規外来患者の獲得	・R6.4から週2回の午後外来を実施。年間延患者数は310人であり、うち新規患者数は49人。	A
	費用関連	人件費適正化策	・患者数に合わせた病床構成の適正化	・1病棟体制に向けて、職員の異動をR6年度中に前倒しで行うなど、適正配置に取り組んだ。	A
		委託費抑制策	・委託内容、業務仕様及び契約方法の見直し	・1病棟体制に向けて、委託内容、業務仕様などの見直しを行い、費用削減に取り組んだ。	B
人材確保			・医師、看護師、医療技術職員等の勤務環境の整備	・1病棟体制に向けて、施設基準を満たすための人員を確保した。 ・限られた人員のため、部署間の協力体制を整えた。	B

（4） 経営指標に係る数値目標

＜総合病院＞

区分	項目	R4年度	R5年度	R6年度		R6年度実績 対前年度 増減	R6年度実績 対目標 増減	評価
				目標	実績			
収支改善に係る指標	経常収支比率	97%	94%	95%	92%	▲2%	▲3%	B
	修正医業収支比率	84%	85%	87%	84%	▲1%	▲3%	B
	医業収支比率	85%	87%	88%	85%	▲1%	▲3%	B
収入確保に係る指標	1日当たり入院患者数	264人	267人	262人	289人	22人	27人	A
	1日当たり外来患者数	966人	975人	928人	997人	21人	69人	A
	患者1人当たり入院単価 (一般病棟)	58,979円	58,318円	62,936円	59,354円	1,036円	▲3,582円	C
	患者1人当たり外来単価	16,481円	16,527円	17,143円	16,861円	334円	▲282円	B
	病床稼働率(一般病棟)	62%	65%	62%	71%	6%	9%	A
経費削減に係る指標	給与費対 修正医業収益比率	57%	56%	55%	57%	2%	2%	B
	材料費 対修正医業収益比率	30%	28%	28%	29%	1%	1%	B
	委託費 対修正医業収益比率	13%	13%	12%	12%	▲1%	0%	B

＜扇田病院＞

区分	項目	R4年度	R5年度	R6年度		R6年度実績対前年度増減	R6年度実績対目標増減	評価
				目標	実績			
収支改善に係る指標	経常収支比率	94%	91%	93%	79%	▲12%	▲14%	C
	修正医業収支比率	78%	77%	81%	66%	▲11%	▲15%	C
	医業収支比率	79%	78%	82%	67%	▲11%	▲15%	C
収入確保に係る指標	1日当たり入院患者数	69人	68人	74人	49人	▲19人	▲25人	C
	1日当たり外来患者数	110人	98人	110人	93人	▲5人	▲17人	C
	患者1人当たり入院単価（地域包括ケア病床）	35,041円	34,698円	35,500円	34,881円	188円	▲614円	B
	患者1人当たり外来単価	10,666円	10,885円	11,000円	11,223円	338円	223円	A
	病床稼働率	66%	58%	71%	50%	▲8%	▲21%	C
経費削減に係る指標	給与費 対修正医業収益比率	76%	77%	71%	91%	15%	20%	C
	材料費 対修正医業収益比率	11%	9%	11%	9%	0%	▲2%	A
	委託費 対修正医業収益比率	18%	18%	18%	22%	4%	4%	B

(5) 経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等

①収益的収支

＜総合病院＞

（単位：百万円）

区分	項目	R4年度	R5年度	R6年度		R6年度実績対前年度増減	R6年度実績対目標増減
				目標	実績		
収入	1. 医業収益	9 ,223	9,519	9,625	10,094	575	469
	(1) 入院収益	4,981	5,104	5,258	5,613	509	355
	(2) 外来収益	3,867	3,918	3,952	4,084	166	132
	(3) その他	376	497	414	397	▲ 100	▲ 17
	うち他会計負担金	136	135	136	141	6	5
	うちその他の医業収益	240	363	278	256	▲ 107	▲ 94
	2. 医業外収益	1,916	1,336	1,351	1,450	114	99
	(1) 他会計負担金・補助金	1,080	1,073	1,113	1,151	78	38
	(2) 国(県)補助金	653	56	55	94	38	39
	(3) 長期前受金戻入	114	132	114	131	▲ 1	17
	(4) その他	69	77	69	74	▲ 3	5
	経常収益 (A)	11,140	10,855	10,976	11,544	689	568
支出	1. 医業費用	10,857	11,005	10,801	11,854	849	1,053
	(1) 職員給与費	5,162	5,279	5,159	5,792	513	633
	(2) 材料費	2,706	2,674	2,586	2,925	251	339
	(3) 経費	2,307	2,338	2,288	2,423	85	135
	うち委託費	1,146	1,211	1,128	1,231	20	103
	うちその他経費	1,161	1,127	1,160	1,192	65	32
	(4) 減価償却費	636	656	723	664	8	▲ 59
	(5) その他	46	59	46	51	▲ 8	5
	2. 医業外費用	588	566	588	664	98	76
	経常費用 (B)	11,445	11,570	11,389	12,518	948	1,129
経常損益(A)- (B)　(C)		▲305	▲ 716	▲414	▲ 974	▲ 258	▲ 560
特別損益	1. 特別利益 (D)	0	0	0	0	0	0
	2. 特別損失 (E)	4	3	0	5	2	6
	特別損益 (D)-(E) (F)	▲4	▲ 3	0	▲ 5	▲ 2	▲5
純損益 (C) + (F)		▲309	▲ 719	▲414	▲ 979	▲ 260	▲565
資金不足額		▲106	368	81	1,021	653	940
資金不足比率		▲1.1%	3.8%	0.8%	10.1%	6.3%	9.3%

※小数点以下は四捨五入しているため、合計値にずれが生じる可能性があります。

＜扇田病院＞

（単位：百万円）

区分	項目	R4年度	R5年度	R6年度		R6年度実績対前年度増減	R6年度実績対目標増減
				目標	実績		
収入	1. 医業収益	1,066	1,016	1,106	861	▲155	▲245
	(1)入院収益	697	676	740	526	▲150	▲214
	(2)外来収益	286	258	286	253	▲5	▲33
	(3)その他	83	82	80	82	0	2
	うち他会計負担金	15	14	15	14	0	▲1
	うちその他の医業収益	68	68	65	68	0	3
	2. 医業外収益	239	209	192	193	▲16	1
	(1)他会計負担金・補助金	202	190	178	181	▲9	3
	(2)国(県)補助金	6	5	0	1	▲4	1
	(3)長期前受金戻入	26	9	9	7	▲2	▲2
	(4)その他	5	5	5	4	▲1	▲1
	経常収益 (A)	1,305	1,225	1,298	1,054	▲171	▲244
支出	1. 医業費用	1,352	1,306	1,351	1,290	▲16	▲61
	(1)職員給与費	853	831	777	832	1	55
	(2)材料費	111	105	119	92	▲13	▲27
	(3)経費	302	292	377	290	▲2	▲87
	うち委託費	186	187	190	185	▲2	▲5
	うちその他経費	116	105	187	105	0	▲82
	(4)減価償却費	82	77	75	74	▲3	▲1
	(5)その他	3	1	3	2	1	▲1
	2. 医業外費用	41	40	48	42	2	▲6
	経常費用 (B)	1,393	1,345	1,399	1,332	▲13	▲67
経常損益 (A) - (B)　(C)		▲ 88	▲120	▲101	▲278	▲158	▲177
特別損益	1. 特別利益 (D)	0	0	0	0	0	－
	2. 特別損失 (E)	0	0	0	0	0	－
	特別損益 (D) - (E)　(F)	0	0	0	0	0	－
純損益 (C) + (F)		▲ 88	▲120	▲101	▲278	▲158	▲177
資金不足額		371	445	477	666	221	189
資金不足比率		34.7%	43.8%	43.1%	77.3%	33.5%	34.2%

※小数点以下は四捨五入しているため、合計値にずれが生じる可能性があります。

②資本的収支

＜総合病院＞

（単位：百万円）

区分	項目	R4年度	R5年度	R6年度		R6年度実績対前年度増減	R6年度実績対目標増減
				目標	実績		
収入	1. 企業債	177	279	140	430	151	290
	2. 他会計出資金	410	406	438	399	▲ 7	▲ 39
	3. 国(県)補助金	186	94	20	338	244	318
	4. その他	9	7	8	9	2	1
	資本的収支計 (G)	781	787	606	1,176	390	570
支出	1. 建設改良費	417	333	161	842	509	681
	2. 企業債償還金	712	711	708	690	▲ 21	▲ 18
	3. その他	9	8	14	13	5	▲ 1
	資本的支出計 (H)	1,138	1,052	883	1,546	493	663
収支差額 (G) - (H)		▲ 358	▲ 266	▲ 277	▲ 369	▲ 104	▲ 92

＜扇田病院＞

（単位：百万円）

区分	項目	R4年度	R5年度	R6年度		R6年度実績対前年度増減	R6年度実績対目標増減
				目標	実績		
収入	1. 企業債	10	24	50	70	46	20
	2. 他会計出資金	20	21	17	17	▲4	0
	3. 国(県)補助金	8	0	0	0	0	0
	4. その他	0	0	0	0	0	0
	資本的収支計 (G)	38	46	67	87	41	20
支出	1. 建設改良費	19	26	50	70	44	20
	2. 企業債償還金	41	45	38	38	▲7	0
	3. その他	0	0	0	0	0	0
	資本的支出計 (H)	60	71	88	108	37	20
収支差額 (G) - (H)		▲22	▲25	▲21	▲21	4	0

※小数点以下は四捨五入しているため、合計値にずれが生じる可能性があります。

（6） 総 括

総合病院は、入院・外来患者数や診療収入が増加傾向で、救急搬送患者受入が伸びていることや、北秋田市の妊産婦の受入れ、鹿角市の小児患者の受入れ増が見込まれるなど、圏域の基幹病院としての役割を担っていくところでありますが、費用の増加によって経営が非常に厳しい状況であり、患者数の状況を見ながら、早急に収支改善策を講じていかなければなりません。

扇田病院は、資金不足の大幅な増加など、現在の機能のままでは経営の持続が厳しい見通しであることから、病床を持たない形態を含め更なる医療機能の見直しも検討せざるを得ない状況となっています。

大館市病院事業が将来にわたり圏域住民の生命と健康を守り抜いていくためには、経営基盤の強化が不可欠です。そのため、大館市病院事業では令和6年度の経営強化プランの点検・評価結果を踏まえたうえで、総合病院、扇田病院で取り得る収支改善の方策を速やかに講じる計画として、経営強化プランの見直しを行っていきます。